

令和6年2月28日 米国エネルギー省（DOE）と文部科学省の会談概要

DOEの偏極電子と偏極陽子・原子核の衝突型加速器（EIC）プロジェクトに関する発言

- ① EICは他に類を見ない原子核物理学研究の場を提供する。その研究成果は将来の電力関係技術の原動力となり、またその応用範囲はエネルギーからコンピューティング、情報技術にまで広範に及び得る。
 - ② 日本のEICに対する貢献はEICプロジェクトを成功させる上で必要不可欠。理研を始めとする日本の大学・研究所など科学コミュニティがEICに貢献することを強く期待しており、それを文部科学省が支援するよう要請（request）させていただく。
 - ③ これまでの原子核物理分野における日米科学技術協力の実績を高く評価しており、中でも理研のブルックヘブン研究センター（RHIC）はその最たる成功例として日米双方にとって有益な成果を残してきた。この実績をさらに展開していきたいと、日本のEIC計画への参加を強く望む。
- 文部科学省からは、国内関係研究機関とともに速やかに検討する旨を回答。